

林野庁 森林・山村多目的機能発揮対策事業

山野草が群生する自然豊かな里山林再生プロジェクト

榛名里山林を守る会 代表 久保田伯一

今年は春の訪れが早く、5月の連休を待たずに山桜が満開になり、ケヤキやコナラなどの木々も芽吹き、山菜も収穫期となりました。3月18日にはフキノトウが収穫でき、これは天ぷらや刻んで生で食しました。

4月15日にはユキザサの新芽をおひたしにして食べました。5月下旬になるとオオバギボウシが芽を出した。これは「ウリッペ」とも呼ばれ、おひたしにすると甘い香りがあるため美味である。

山菜狩りと山野草園の観察会のイベントは5月9日（土）に開催しました。今年はフキ、山ウド、モミジガサ、ミツバ、イタドリなどを収穫できました。これらは、昼食時に天ぷらにして食べました。

山野草園づくりにおける遊歩道の敷設は未だ完成半ばであったが、森林浴を兼ねて林内散策をしながら、山野草園内の遊歩道を歩き、いくつかの山野草を観察することができました。山野草園内にある山野草は、周辺に



自生しているものと、新たに苗を植栽したもの、種を播いて栽培しているものからなる。自生している山野草は、ユキザサ、オオバユキザサ、サクラソウ、ヤグルマソウ、スズラン、ギボウシ、オオバギボウシ、ホタルブクロ、ヤマユリ、サイハイラン、エンレイソウ、ミヤマエンレイソウ、モミジガサ、トリアシショウマ、サラシナショウマ、レンゲショウマ、フユノハナワラビ、フクジュソウ、ヒトリシズカ、フタリシズカ、ヤマアジサイ、クモキリソウ、クサタチバナ、ルイヨウボタン、マムシグサ、ウバユリ、ハシリドコロなど、結構種類が多く自生していることに驚くほどである。新たに植栽したものとしては、ホトトギス、キキョウ、ホウチャクソウ、フジバカマ、オミナエシ、イカリソウ、ウラシマソウ、ツルニンジン、

トチバニンジン、ギョウジャニンニク、シモツケソウ、クリンソウ、シュンラン、ナルコユリ、エビネ、ニッコウキスゲ、ササユリ、カキラン、シラネアオイ、などで、これらを少しずつ増やしていくことが楽しみである。昨年に播種した節分草は、今年の春には芽を出し、2葉で春を迎えた。3年で花を付けるとのことのようで、来年の春に成長した姿をみせてくれれば、再来年には可憐な花を見せてくれることを楽しみにするばかりである。

山野草の名前には、面白いもの、興味深いものもあり、例えば「ホタルブクロ」は、昔、子供たちがホタルを花の中に入れて、提灯に見立てて遊んだことに由来するとのことである。

「イカリソウ」は別名「神楽草」とも呼ばれており、羊がこの植物を食べたら精力絶倫になったという伝説から「淫羊雀」という生薬になるとのことである。

「ハシリドコロ」は、食べると錯乱して走り回ること、また根茎がトコロ（野老）に似ていることから名付けられ、芽生えがフキノトウと間違えやすく、誤食すると、ほろ苦く思いのほか美味であるが、後になって嘔吐や痙攣、昏睡などの中毒症状を発症する。

また、よく誤食で中毒するものに「バイケイソウ」があり、芽生えがオオバギボウシやギョウジャニンニクとよく似ており、誤食すると血管拡張作用による血圧低下を引き起こし、重症例では意識喪失し死亡することもある。その他、有害植物として、トリカブト、フクジュソウ、エンレイソウ、スズラン、などがある。

今後も、いろいろな山野草を保護しながら増やしていくことが、自然豊かな里山づくりに繋がっていくものと信じ、この活動の輪を広げていく努力を続けていきたいと思っています。

山野草園づくりの活動は、毎週土曜日の午前中に行っています。この活動は森林ボランティア活動であり、ボランティアの参加状況により不定期に実施しています。榛名里山林を守る会のスタッフにより、時々、下草刈りを行いながら、植栽や増殖の管理を行っている他、学生ボランティアや企業の社会貢献活動としても、イベント形式で参加していただいております。森林ボランティア活動としては、森林に興味を持ってもらうことが

大切である。豊かな自然を五感で感じてもらうこと、特に春の芽生えからは森林中のオゾンが増えフィトンチッドも香り、森林浴にもってこいの季節で、昆虫や鳥の活動も活発になる季節でもあります。命を育む森林を感じて楽しんでくれることを期待します。

